

日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会ニュース

発行所：日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会事務局 〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1
金沢医科大学医学部衛生学講座 TEL 076-218-8101 FAX 076-218-8214 発行責任者：地方会長 櫻井 勝



松本地域の伝統行事「三九郎」のやぐら（松本市小屋地区 2026.1.11 松澤幸範先生 撮影）

卷頭言



ストレスチェックを有効に活用するには

日本産業衛生学会北陸甲信越地方会
長野県理事

松澤 幸範

労働者のメンタルヘルス不調を未然に防止することを目的に創設されたストレスチェック制度もすでに10年が過ぎました。しかし、精神障害を発病し労災認定される労働者の数にいまだ減少の兆しが見えていません。また、厚生労働省の調査によれば、全国におけるストレスチェックの実施率が最近低下気味であることも報告され

ています。ストレスチェックの有効な活用方法についての私見をいくつか述べさせていただきます。

1. 有用性について繰り返し周知する：

ストレスチェック後の面談などで感じることは、受検しても自分が高ストレスかそうでないかに注目するだけで、自身が抱えるストレスの内容やその対策についての解説文まで確認している人が意外に少ないということです。ストレスチェックの結果（レーダーチャート）は、その人の職業性ストレスやストレス反応の特徴を素直に反映している場合が多いので、解説文までしっかり確認するよう、広報や教育で繰り返し周知しています。

2. 法定の医師面接だけでなく産業医や産業看護職による通常面談の利用も勧奨する：

法定の医師面接を受ける高ストレス者が非常に少ないので現状です。高ストレスの有無にかかわらず、心配があれば通常の面談を利用するよう広報等で繰り返し周知しています。余談ですが、弊社グループでは 2 年前に紙ベースからスマホやパソコンで回答する方法に変更されましたが、その効果か医師面接の利用が増えた印象があります。

3. 受検率を高める：

集団分析は 10 名以上のグループ単位で解析可能ですが、受検率が低い場合、集団分析そのものが不可能になったり、正確な集団分析ができなくなったりする可能性があります。90%以上の受検率を目標に受検勧奨を繰り返し行うことが重要と思います。

その他、医師面接後のフォローメeting も必要に応じて行っています。ストレスチェックはただ実施すればいいということではなく、やるからには毎年様々な工夫をして、より良いものにしていきたいと思います。

第 68 回北陸甲信越地方会（甲府）開催報告



日本産業衛生学会北陸甲信越地方会
山梨県常任理事

小林 正洋

2025 年 10 月 26 日（日）、第 68 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会が、山梨県医師会長の鈴木昌則先生を学会長として、甲府市の「甲府市歴史文化交流施設 こうふ亀屋座」にて開催されました。

学会前日の 25 日（土）には、地方会産業医部会・産業保健看護部会・産業歯科部会の共催による特別企画「360 度動画を用いた職場巡視体験実習」が行われました。公益財団法人健康管理事業団を会場に、参加者 18 名が 2 つの職場巡視を 360 度動画で体験し、アクションチェックリストを用いて改善点や良い点をグループでまとめ、発表するという実践的な内容で、大変有意義な学びの場となりました。

学会当日は、午前に一般演題と昼に総会、午後に特別講演が行われました。一般演題は計 7 題で、海外赴任中に腫瘍マーカー高値が判明し、産業医を介して臨床へ円滑に連携された症例報告、エコチル調査参加者を対象とした労働時間と育児行動の関連分析、難病患者の両立支援、ICT を活用した産業医実地研修、信州職域コホート研究の続報、地域産業保健センター改革など幅広いテーマが発表され、活発な質疑応答が交わされました。12 時からは総会議事が行われ、会務報告や今後の活動方針について確認がなされました。

午後の特別講演は 2 題でした。特別講演 1 では山梨大学医学部附属病院産婦人科教授の吉野修先生より「とにかく女性を守りたい！～産婦人科医が行う女性の就労支援～」と題して、女性の就労支援における産婦人科医の

役割についてご講演いただきました。特別講演2では山梨大学医学部社会医学講座准教授の大岡忠生先生より「AIを用いた先制医療と産業保健との共創」と題して、AI技術を活用した先制医療の展望と産業保健活動との連携についてご講演いただきました。

今回の開催に際し、急な日程変更によりご迷惑をおかけいたしました。また、会場となった「亀屋座」は開設間もない新しい施設であり一部ご不便をおかけした点もございましたが、当日は約50名の参加者が集い、皆様のご理解とご協力により、円滑な運営が叶いましたこと、ご参加いただいた皆様、ならびに開催にご尽力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

次の地方会は2026年に富山にて開催予定です。今後も産業保健活動の発展と会員間の交流を深める場として、より充実した学会となることを願っています。



地方会事業から

産業保健看護部会（石川）の活動

石川県の産業保健看護部会員は、現在14名です。今年度、石川県立大学の室野奈緒子先生による研修会『業務で行う統計』を3回実施しました。エクセルを使った集計・分析と、アンケート調査のポイントについて、PCを持参して実習を行いました。

石川産保との共催研修も6回実施しました。

	日時	テーマ:講師
1	2025年4月21日(月) 13:30~15:30	「開業保健師による小規模事業場の産業保健活動」 中尾労働衛生コンサルタント事務所ワーク&ヘルス 代表 中尾由美先生
2	2025年6月5日(木) 14:00~16:00	熱中症対策にも!生活習慣病予防に繋げるコンビニ食の 選び方 東京労災病院治療就労両立支援センター 管理栄養士 平澤芳恵
3	2025年6月26日(木) 14:00~16:00	「化学物質管理の基本」 株式会社環境管理センター 基盤整備・研究開発室 技術部長 飯田 裕貴子先生
4	2025年7月17日(木) 14:00~16:00	「職域での糖尿病重症化予防の考え方」 金沢医科大学衛生学教授 櫻井 勝先生
5	2025年9月29日(月) 14:00~16:00	「事業場における化学物質管理の実際」 森中労働衛生コンサルタント事務所 労働衛生コンサルタント＆作業環境測定士 森中秀法
6	2025年10月23日(木) 14:00~16:00	「メンタルヘルス対策の進め方」 株式会社 高山産業医事務所 代表取締役・産業医・労働衛生コンサルタント

また昨年度から、北陸3県で合同研修会を開始しています。住徳副部会長による研修（産業保健看護の役割を考える）を実施しています。昨年は金沢で、今年は富山で、来年は福井で実施予定です。学会活動の大切さをPRする機会になりました。（文責 亀田真紀）



会員の取り組み

理学療法士による職場訪問 支援への取り組み



長野保健医療大学 保健科学部
リハビリテーション学科
理学療法学専攻

佐藤 剛章

現在、私は理学療法士として企業の現場を訪問し、労働災害防止に向けた支援を行っています。主なテーマは、労働災害の大半を占める「転倒」と「腰痛」の予防です。来年度からは労働安全衛生規則の改正により、高年齢労働者への対策が努力義務化されるなど、企業における身体的な安全性確保の重要性は、かつてないほど高まっています。

現場を訪問して驚かされるのは、そのリスクの高さです。ある事業所では、過去1年内に転倒を経験した労働者が30%を超えるという深刻な実態がありました。しかし、それ以上に問題だと感じるのは、多くの労働者が「環境」の問題に加え、自分自身の「身体能力の変化」にまったく気づいていないという点です。「昔と同じように動けるはず」という無意識の思い込みが、加齢に伴う平衡感覚や柔軟性の低下を覆い隠しています。その結果、段差のない場所でのつまずきや、身体機能に見合わない無理な作業姿勢が常態化し、災害につながっているのです。

ここに、動作と身体の専門家である理学療法士が介入する意義があります。我々は、作業管理や作業環境管理といった外的要因への助言だけを行うわけではありません。「なぜその動作でバランスを崩すのか」を作業分析し、労働者自身に現在の身体機能の限界や癖を客観的に認識してもらう。その上で、その身体に合わせて作業方法や環境を微調整する。この「環境」と「身体」双方へのアプローチこそが、我々の支援の要です。

法改正は単なるルールの変更ではなく、働く人々を守るためにメッセージです。職場訪問を通じて、一人でも多くの労働者が自身の身体と向き合い、安全で健康的に働き続けられる社会を実現したい。そのために、産業保健スタッフの皆様と連携し、実効性のある支援を続けてまいります。

私たちの職場

長岡崇徳大学看護学部 在宅・公衆衛生看護学領域 渡邊 路子

長岡崇徳大学は、2019年に新潟県長岡市に開設され、「崇徳」の理念のもと、他者を思いやる心と確かな実践力を備えた看護専門職の育成を目指しています。地域に根ざした教育・研究活動を通じて、地域社会の健康づくりに貢献する人材の育成に力を注いでいます。

本学では、地域包括ケア、災害看護、産業保健など、現代の多様な健康課題に対応できる実践的なカリキュラムを展開しています。在宅・公衆衛生看護学領域には7名の教員が在籍し、公衆衛生看護全般を担当しています。その中に産業保健も位置づけられており、働く人々の健康支援に関する教育・研究にも力を入れています。

保健師課程では、地元企業と連携した産業看護実習を実施しており、学生は実際の職場における健康支援活動を体験的に学んでいます。また、地元企業で活躍する保健師の方を講師にお招きし、産業看護の実際について講義をいただく機会も設けています。これらの取り組みは学生からも非常に好評で、「働く人の健康を支える看護の役割を実感できた」「将来の進路を考えるきっかけになった」といった声が多く寄せられています。

こうした実践的な学びをさらに体系化するため、2026年度からは新たに「産業看護学」の科目を新設します。産業保健の現場で求められる知識と実践力を段階的に学ぶことで、働く人々の健康と安全を支える看護職の育成を一層推進していきます。

教員は臨床・教育・研究の多様な専門性を活かし、協同しながら教育内容の改善や学生支援に取り組んでいます。少人数制の強みを活かし、教員と学生の距離が近く、日々の学びや悩みに丁寧に寄り添う温かな雰囲気が特徴です。教員間のサポート体制も整っており、自由に意見を出し合える風通しの良い職場です。

今後も、産業保健分野における実践的研究と地域連携をさらに深め、地元企業の健康支援にも貢献していくと考えています。学会員の皆さまと知見を共有しながら、産業保健の発展と看護教育の質的向上に寄与してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



新人会員紹介



福井大学 医学系部門
看護学領域 看護学講座
コミュニティ看護学 助教

夏梅 るい子

2025年4月に入会いたしました夏梅るい子と申します。現在、福井大学医学部看護学科の教員をしております。大学に着任して10年になりますが、それ以前は行政保健師、看護専門学校教員として勤務しておりました。

私の専門は、地域母子保健です。そのため、産業保健衛生分野とは学生以来、長らくご縁がありませんでした。しかし、大学で産業保健実習を担当することになり、久々にこの分野に携わるようになりました。その中で、実習先で本学会を紹介してくださった産業保健師さんの熱心な取り組みに触れ、大変感銘を受けました。産業保健衛生分野をさらに盛り上げること、そして学生がこの分野に、より興味を持てるよう私自身も研鑽を重ねていきたいと考えております。

近年、仕事と子育てとの両立が前提となる中、労働と健康、そして子育ての調和を図るには、産業保健衛生と地域母子保健の連携が重要だと考えております。私はこの両方の立場から、現場で活かせる知見を生み出し、実践の質向上と看護教育を通じて分野の発展に貢献していきたいと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

事務局から

理事会報告

○2025年度北陸甲信越地方会 理事会
日時：2025年10月25日（土）
会場：ホテル談露館（甲府市）

今後の行事案内

○2026年度北陸甲信越地方会 常任理事会（予定）
日時：2026年6月20日（土）
会場：長野東急REIホテル（長野市）

○2026年度北陸甲信越地方会 理事会（予定）

日時：2026年10月17日（土）
会場：未定（富山市）

○第69回北陸甲信越地方会 学会・総会（予定）

日時：2026年10月18日（日）
会場：富山市民プラザ 3F マルチスタジオ（富山市）
内容：一般演題発表、特別講演

編集後記

この度、北陸甲信越地方会の地方会ニュース第18号を発行することができました。本号では、第68回北陸甲信越地方会の開催報告、各県の皆様の活動等をお知らせいたしました。発行に際し、ご協力、ご尽力いただきました皆様へ感謝申し上げます。

2025年度の学会活動も年度末（2026年2月末）を近くに迎え、来年度の学会活動に向けて準備等が進んでおります。日本産業衛生学会北陸甲信越地方会の引き続きの発展のために皆様のお力添えを引き続きいただければ幸いです。2026年度の北陸甲信越地方会は、10月に富山市で開催予定です。ぜひご参加をいただけますと幸いです。

本ニュースレターより編集委員の先生に、奥島華純先生、吉岡英治先生が着任されました。どうぞよろしくお願ひいたします。また現在までご担当いただきました、稻寺秀邦前編集委員には、ニュースレター発刊にご尽力をいただき、誠にありがとうございました。

今後も地方会員の皆様の活動や取り組みを広報して参りたいと思います。ご意見やご感想などございましたら編集委員までお寄せ頂けますと幸いです。

編集委員（五十音順）

編集委員長：塙原 照臣
副編集委員長：西澤 依小
編集委員：遠藤 和男、奥島 華純、
小坂 智恵子、高山 英之、
角田 ひろみ、松永 康弘、丸山 猛士、
室野 奈緒子、吉岡 英治
事務局：水木 将